

秋厚労ニュース

住民が地域をつくる

鹿角地域調査 報告集会

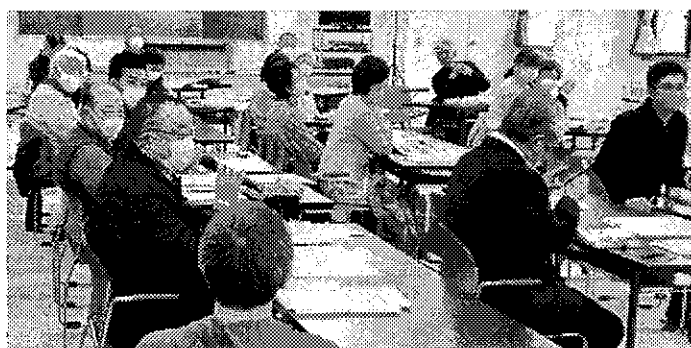
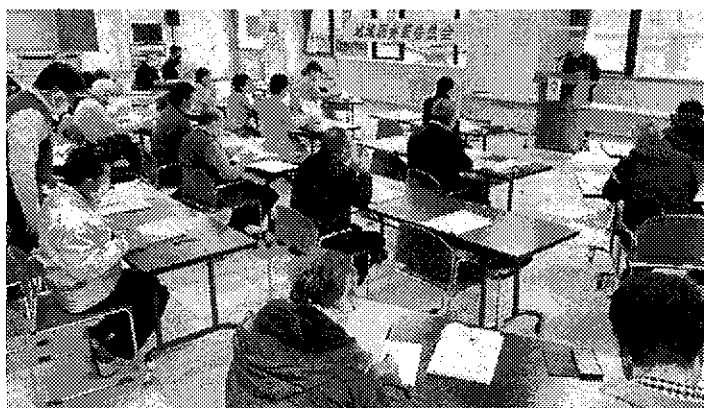
去る4月17日（土）、鹿角市福祉保健センターにて、鹿角の医療と福祉を考える市民町民の会「第2回地域調査の報告集会」が開催されました。換気、手指消毒、マスクなど3密・感染対策を徹底。秋厚労8人を含む45人が参加し、地域の課題や将来について率直に話し合いました。

鹿角最大の課題は「いのち」

市民町民の会は、活動する中で「地域全体がしほみつつある今の姿から目をそらし、単に医療・福祉だけが良くなることはありえない」「住民がみずから地域をつくる必要がある」と考えました。

地域の事態を知るために、2016年から団体や個人に聞き取り調査を実施。4年間で344件の話を集め、分析しました。

平均寿命 県内最下位
調査によって、鹿角市の平均寿命が数年前には県内



参加した人どうして話し合いました

地域で医療を支える一環

こころの健康センター

鹿角地域でお産が出来なくなったことに関して、市民町民の会は「住民が地域のコンセプトを考え、共感する医師・助産師を求め」等とする「子育ての郷

ろの健康センター」の取り

原因は①今の日本が基本的に「生きづらい」社会である②「秋田市一極集中・何でも合併」を軸にした地方行政③地域の縮小

を合せる・つくる・学ぶ・支える・つながる・始める」の7項目を提案しました。

「こころの健康センター」の取り

精神科に関する「地域で医療を支える」一環として、相談・訪問・連携・学習などを主目的とした「こころの健康センター」の取り

定期的に住民が話し合う場が必要

報告後、参加した人どうして自己紹介をし、全体の話し合いへ。

「みんなであれば何か出来るんじゃないか、と気づいた」「色んな団体が手をつなぐことが大事」「定期的に住民が話し合う場が必要」など、徐々に話が弾んできます。

「商店街で高校生が気軽に買い食いし、おしゃべり

組みを報告しました。



報告集会に参加した住民と市民町民の会と鹿角支部の皆さん

できる場をつくってはどうか」「交通手段に関するアンケートをして、運転ボランティアなど、率直な意見が交わされました。

精神科常勤医の赴任についても「精神科のお医者さんが来てくれて安心した」「優しく指導してくれて、家族の具合が良くなった」など、喜ぶ声が出されました。